

第1学年 ICT活用教育実践事例

国語科

「ともだちのこと、しらせよう」

ICTを活用したインタビュー活動の充実

学習のねらい（本時：2／6）

相手の知らせたいことや自分の聞きたいことについて内容を落とさないように集中して聞く。

学習の流れ

- ① 学習の見通しをもつ。
- ② インタビューの仕方を考える。
- ③ 友達にインタビューをする。
- ④ 学習を振り返る。

①学習の見通しをもつ。

○付録CDを聴き、インタビューの流れをつかむ。



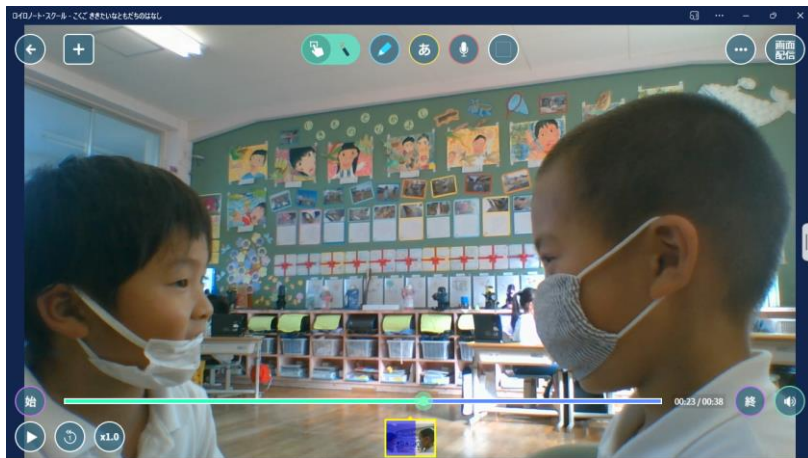
友達は今どんな
ことが一番楽し
いのかな。

②インタビューの仕方を考える。

- ・相手の話を聞いて、もっと知りたいと思ったことを質問する。
- ・おもしろいところや驚いたことは何かを考えながら聞く。
- ・理由・時・方法などについて質問する。
- ・相手の目を見て声の大きさや速さなどを工夫して話す。

③友達にインタビューをする。

○インタビューしている様子を「ロイロノート」で撮影する。



「今、一番楽しいことは何ですか。」

「てつぼうです。」

「なにができますか。」

「逆上がりができます。」

「誰に教えてもらいましたか。」

「友達が教えてくれました。」

③友達にインタビューをする。

○動画を見返して、よりよいやり取りにするにはどうしたらよいかを話し合う。（ハイリントタイム）

「いつ」「どこで」「だれと」についても質問したらいいんじゃないかな。

「すごいですね。」
みたいなあいづちを言えたらよかったな。



③友達にインタビューをする。

○話し合った結果を基に、もう一度インタビューをする。

おうちで友達と練習しています。



それはすごいことですね。今度ぼくにも教えてください。

④学習を振り返る。



- ・ 友達が話したことをよく聞いて、びっくりしたことやすごいと思ったことについて質問したら、もっと友達のことが分かったよ。
- ・ 友達の今一番楽しいことについて詳しく知ることができてうれしかったな。

成果

- インタビューの動画を見返すことで、児童は自分のやり取りを客観的に見ることができ、自分の課題に気付くことができた。また、このことがよりよいやり取りをするにはどうしたらよいかという話合いの充実につながった。
- 動画を教師のタブレット端末に送ることで一人一人の学習状況を正確に見取ることができた。

課題

- ハイリントタイムの際、声の大きさや話す速さについてなどの、話し方だけについて話し合っている班がいた。話合いの視点をまとめたチェックシートを用意することで、質問の内容について話し合いがより深まったのではないかと考える。
- 撮影することに意識が向き、相手とのやり取りに集中しにくい場面があった。2回目のインタビューの前に、全体で手順を確認したり、教師が適切に声掛けをしたりして、やり取りに集中できるようにする必要がある。